34　木村雨山ほか《友禅唐獅子図衝立》

一点

昭和八年（一九三三）　塩瀬、友禅染、刺繍

総二一・五×七八・五×八五・五

表には鮮やかな朱色の地に瑞雲をたなびかせて天翔る唐獅子を、裏面には藍地に牡丹文を染めて表した暖炉前衝立である。力強い描線、色彩の鮮やかさや色の暈かしに、優れた技術が認められる。唐獅子の巻き毛や輪郭の線、瑞雲の線の各所に細やかな刺繍が施されている。伝来によれば、衝立面の生地には石川県工業試験場大聖寺分場で織られた塩瀬羽二重が、枠には桑材が用いられている。染色を担当したのは木村雨山（一八九一～一九七七）である。木村は加賀友禅の技法を修めて大正十三年（一九二四）に独立し、翌年の商工省工芸展覧会に入選、帝展にも出品を重ねた。後に昭和三十年、初めて重要無形文化財が認定された折に、重要無形文化財「友禅」の保持者となった。また、刺繍は小川寿山（生没年不詳）、木工は池田作美（一八八六～一九五五）と、石川県を代表する工芸家が担当している。

昭和八年（一九三三）十月、陸軍特別大演習御統裁のため昭和天皇が福井県に行幸された折、石川県知事山口安憲より「染色衝立」の名称で献上された品である。

裏面

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ ―光と影の造型美
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 70

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan